

# News & Scope Handai Hospital

## 阪大病院ニュース

### 第56号

発行／大阪大学医学部附属病院広報委員会（総務課）  
<http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp>

禁輸載

(この紙面は再生紙を使っています)

住所／〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15 TEL／06-6879-5021

## 災害対応への意識向上を目指し



10月7日に実施された平成26年度防災訓練



移植医療部は平成15年、診療科の垣根を越えて、臓器移植・造血幹細胞移植・臓器提供などの移植医療全般に関わる中央診療部として、全国に先駆け発足しました。平成22年には、改正臓器移植法が施行され、脳死下の臓器移植が飛躍的に増えました。

本院は日本で初めて、心臓・肺・肝臓・腎臓・脾臓・小腸など、全ての臓器の脳死移植が認められた移植施設であり、平成25年度までに、心臓51例、肺38

例、心肺同時2例、肝臓18例、臓器同時(臓器単体含む)31例、腎臓27例、合計167例の脳死移植を行い、造血幹細胞移植においても長い歴史を持ち実績を上げています。

このような移植医療を、全診療科のチームワークにより円滑に実施していくことが同部の役割であり、臓器移植を担当する各診療科の医師が兼任で運営しています。この制度も立ち上げました。「ご家族に寄り添い、助けられない患者さんの最後のあり方の一つとして、臓器提供という選択肢を考えていたくシステムを作りたい」と、福島教偉副部長は話します。

10周年を迎えた同部は、患者さんやご家族は、患者さんやご家族の精神的・経済的问题にも診療科の枠を越えて対応するなど、疑問に思うことをひとつひとつ解決しながら、日々の連絡や臓器の受け入れを調整する専門職として、患者さんやご家族をサポートしています。



## 10周年を迎えた移植医療部

## 移植医療の定着に尽力

移植医療部のスタッフ

## 平成26年度防災訓練を実施

協力をいたしました。

一方、「通報・避難・消火訓練」は、在室者の確認と避難誘導をいかに迅速に行うことができるかに重点を置き、今回初めて薬剤部(病棟1階)で実施しました。



## 国際医療シンポジウム

「**漕ぎ出せ、グローバル医療！  
新咸臨丸**」!!



8月に米サンフランシスコで開催  
国際医療センター設立1周年

8月30日にサンフランシスコ市内のホテル、Taj Campton Placeにおいて、「大阪大学国際医療シンポジウム Go Global! 3」を開催しました。

海外開催は今回が初めての機会となります。平野俊夫総長の開会挨拶にはじまり、在サンフランシスコ日本総領事館の渡邊正人総領事の来賓挨拶、星野俊也副学長の基調講演に続いて、本院未来医療開発部の澤芳樹国際医療センター長、中田研・南谷かおり両副センター長が、医療の国際化の重要性や課題、そして本学の取り組みについてそれぞれ講演を行い、大学院人間科学研究科の中村安秀教授からは、母子手帳の海外での普及活動の紹介がありました。

本院では、昨年4月に未来医療開発部に国際医療センターを設置し、1周年を迎えるました。さらに本年7月には大学院医学系研究科に国際・未来医療学講座を開講しました。本シンポジウムのテーマである「漕ぎ出せ、グローバル医療！『新咸臨丸』」の表す通り、本学の国際医療に対する決意を十分に示すことができました。

## ホスピタル ミニニュース HOSPITAL MINI NEWS



7/23 一日看護師体験



8/24 ハートセンター夏祭り



9/10 ANA 航空教室



9/24 病院見学会



10/10 秋のミニコンサート



呼吸器内科は肺がん、間質性肺炎、慢性閉塞性肺疾患肺気腫・慢性気管支炎、呼吸器感染症など、あらゆる呼吸器疾患の診療を行っています。

肺がんは日本人のがん死因のトップで、ますます増え続けており、

当科でも入院患者さんの7割を占めます。しかし近年、肺がんの原

因となる遺伝子異常が発見され、特効薬としてEGFR阻害剤のイ

レッサ、タルセバ、ジオトリフ、ALK阻害剤のザーコリ、アセ

ンサなどの分子標的薬が使えるようになります。

特に肺がんの中で最も多い腺がんでは、遺伝子診断を行い、そ

れに応じた治療薬を患

## 呼吸器内科

# 遺伝子診断により肺がんの予後が向上

従って、組織診断（生検）の重要性は増しており、従来生検が難しかった2cm以下の腫瘍に対する超音波プローブ（探触子）を用いた気管支鏡検査を行い、正診率向上に努めています。

呼吸器センターでは、

週1回の合同カンファ

レンスで、外科、放射

線科、内科各分野の視

点から治療方針を検討

し、患者さんに最適か

つQOL（生活の質）に

配慮した治療を選択し

て、最も深刻な症状で

す。一人一人の患者さ

んの痛み、苦しみを十

分に理解したうえで適

切な個別治療を行うた

め、麻酔科、脳神経外

科、整形外科、神経内

科・脳卒中科、神経

科・精神科に、薬剤

療法士、臨床心理士な

どが緊密に連携し、患

者のQOL（生活

の質）やADL（日常生活活動度）に配慮した

チーム医療を行ってい

ます。

「痛みの診療と研究

は、日本では新しい試

み。従来のような診療

科別のアプローチでは

治癒しなかつた難治性

の痛みを持つ患者さん

が、全国から来院され

ています」と、センタ

ーの基盤づくりに携わ

る柴田政彦教授（疼痛

医療センター・疼痛医

学）は話します。スト

レスなどの心理的要因

にも着目し、昨年6

月、初診の患者さんに

対する「特殊外来」を

新設。毎週金曜日に、

医師・臨床心理士・理

学療法士による丁寧な

問診を行い、各診療科

の専門医による診断の

治療法の開発にも取り

組んでおり、齊藤洋一

特任教授（脳神経機能

再生学・脳神経外科）

は、慢性疼痛に対する

経頭蓋磁気刺激療法を

開発し注目されています。齊藤特任教授は

「頭蓋骨の外側から頭部

のある部分に磁気刺激

効果が確認されていま

す。患者さんの身体への負担が少なく、在宅

での使用できる装置を共

同開発し、来年には治

療技術を開始する予定です

と話す、さらに、リア

ルタイムで脳磁図（脳

機能を視覚化したもの）

による脳のトレーニン

グで痛みを軽減する研

究も進めています。

痛みには未知の部分

が多いのですが、このよ

うな先進的な診療・研

究により疼痛医療の発

展に貢献し、今後の標

準的治療を確立してい

きたいと考えています。

受賞

# 「痛みの本質」に迫り心身を包括的に治療

## 疼痛医療センター

難治性の痛みに苦しむ

年に開設されました。



## ホスピタルパーク自動ドアの夜間閉切

夜間の防犯対策のため、9月1日からホスピタルパーク出入り口の自動ドアを夜間閉切することとしました。

下記時間帯にホスピタルパークに出られる場合は、入退院センター出入口からお回りください。ご不便をおかけしますが、ご協力の程よろしくお願いします。

なお、緊急時は自動ドア下部にあるプラスチックのカバーを外し、解錠して通行が可能です。

記

夏季(5月～9月)：20時30分～翌朝5時30分

冬季(10月～4月)：20時～翌朝6時

## ガールズバンドが入院中の子供達と交流



本院にガールズバンド「SCANDAL」の4名が来訪し、入院中の子供達と交流を行いました（写真）。今回の来訪は、メンバーの「（曲作りのための）アンケートに答えてくれた子ども達に直接会ってみたい」という思いから実現したものです。

メンバーは、「テーマソングは一緒に歌えるような曲に仕上げるので、みんなの声が形になった曲をぜひ聴いてほしい」と意気込みを語りました。

## 参加者募集

## 市民公開フォーラム

### 「がんと暮らし」 いきいきと生きるために

- 日 時 12月6日(土)午後1時～3時30分
- 場 所 大阪大学医学部講義棟A講堂
- 募集人員 240名(先着順)※定員になり次第〆切
- 申込〆切 11月27日(木)【必着】
- 講演内容

無料  
料費

1. がんと共に生きるために心の持ち方と注意すべき症状  
大阪大学保健センター 講師 谷向仁
2. がん治療に伴う外見の変化への対応(脱毛を中心に)  
大阪大学大学院医学系研究科  
脳神経機能再生学 特任研究員 後藤 雄子
3. がん治療と仕事の継続について  
NPO法人 がんと暮らしを考える会  
理事長 賢見 卓也

- 申込方法 FAX、メールまたはハガキに必要事項(①氏名  
②郵便番号③住所④年齢⑤性別⑥電話番号  
⑦参加人数(4名まで可))を明記のうえ、下記へお申込みください。

注)FAXからは、頭に186(番号通知)をつけておかけください。

注)車いす利用者など支援が必要な方は、予めお問い合わせください。

宛先 〒565-0871 吹田市山田丘2-15

大阪大学医学部附属病院総務課広報評議会

TEL: 06 (6879) 5020,5021 FAX: 06 (6879) 5019

E-mail : ibyou-soumu-kouhyo@office.osaka-u.ac.jp

●決定通知 参加の可否をハガキでお知らせします。

治療法の開発にも取り組んでおり、齊藤洋一特任教授（脳神経機能再生学・脳神経外科）は、慢性疼痛に対する経頭蓋磁気刺激療法を開発し注目されています。齊藤特任教授は

「頭蓋骨の外側から頭部のある部分に磁気刺激効果が確認されています。患者さんは、頭蓋骨の外側から頭部の負担が少なく、在宅での使用ができる装置と共に、治療法の開発にも取り組んでいます。

同開発し、来年には治療技術を開始する予定です」と話す、さらに、リアルタイムで脳磁図（脳機能を視覚化したもの）による脳のトレーニングで痛みを軽減する研究も進めています。

痛みには未知の部分が多いのですが、このように先進的な診療・研究により疼痛医療の発展に貢献し、今後の標準的治療を確立していく必要があります。



•7月26日「第24回ARMAM賞」受賞  
医療技術部(臨床検査部) 豊川 真弘

•8月29日

「第12回(平成26年度)産学官連携功労者表彰(経済産業大臣賞)」受賞  
未来医療開発部(未来医療センター) 名井 陽

•9月6日

「平成26年度臨床化学会学会賞

Young Investigator Award」

「平成26年度臨床化学会学会賞奨励賞」受賞  
医療技術部(臨床検査部) 井上 直哉

•9月11日

「日本診療情報管理学会 優秀論文賞」受賞  
医事課・医療情報部 堀島 裕之